

メコン・ベトナムWGの開催状況報告

＝メコン・ベトナムWGの概要＝

【経緯】

- 平成23年 1月25日 ベトナムWG設置し、第1回WGを開催
- 平成23年 2月 8日 第1回コアメンバー会議を開催
- 平成23年 3月10日 第2回コアメンバー会議を開催
- 平成23年 5月26日 第2回WGを開催

【WG登録企業（50音順）及びコアメンバー（黄色）】

- WG登録企業：58社
- コアメンバー：11社
- WGとりまとめ役：伊藤忠商事 駒井康司氏、オリエンタルコンサルタンツ 横本秀樹氏

株式会社IHI	大成建設株式会社
IHI運搬機械株式会社	大豊建設株式会社
青木マリーン株式会社	TCM株式会社
あおみ建設株式会社	東亜建設工業株式会社
伊藤忠商事株式会社	東京計器株式会社
株式会社エコー	東洋建設株式会社
株式会社NTTデータ	豊田通商株式会社
株式会社大林組	日建工学株式会社
株式会社オリエンタルコンサルタンツ	株式会社日新
鹿島建設株式会社	日本工営株式会社
株式会社上組	株式会社日本港湾コンサルタント
川崎汽船株式会社	日本通運株式会社
川崎重工業株式会社	日本電気株式会社
基礎地盤コンサルタンツ株式会社	日本物流機器株式会社
ケイヒン株式会社	日本郵船株式会社
株式会社駒井ハルテック	パシフィックコンサルタンツ株式会社
五洋建設株式会社	日立造船株式会社
JFEスチール株式会社	株式会社日立ソリューションズ
シバタ工業株式会社	株式会社フジタ
清水建設株式会社	株式会社古川組
株式会社商船三井	株式会社本間組
新日鉄エンジニアリング株式会社	丸紅株式会社
新日本製鐵株式会社	株式会社みずほコーポレート銀行
住友金属工業株式会社	三井造船株式会社
住友ゴム工業株式会社	三井物産株式会社
住友重機械エンジニアリングサービス株式会社	三菱重工業株式会社
住友商事株式会社	三菱倉庫株式会社
株式会社住友倉庫	りんかい日産建設株式会社
双日株式会社	若築建設株式会社

＝各会合の開催概要＝

【第1回WG】

日 時) 平成23年1月25日(火) 13:30～15:00

場 所) 中央合同庁舎3号館10階共用会議室A

出席者) 民間企業61名、関係機関8名、政府関係者13名

議 事)

- ・ベトナムWGの進め方について
- ・ベトナムにおける港湾物流プロジェクトの情報提供
 - － JICAの取り組みについて (JICA)
 - － ベトナムにおける港湾開発・運営の状況 (OCDI)
- ・政府間協議における先方政府への要望事項
- ・日ベトナム港湾セミナーの実施について
- ・コアメンバーの選出

■ JICAより、「ラックフェン港開発を含むベトナム運輸セクターに対する主な協力概要」や「大メコン圏 (GMS) 開発」等について情報提供頂き、OCDIより、「ベトナム港湾開発に関する外国企業の進出状況」や「ベトナム港湾セクターの動向」等を情報提供頂いた。

■ ベトナム政府への要望事項としては、PPP制度の進捗を把握したい等の意見が出ており、今後の政府間協議、セミナーにおいて取り上げていくことを検討。

■ 最後に、本WGの中心となるコアメンバーを選出するため、WG企業へ希望を募り、以下の企業がコアメンバーとして承認された。

IHI、伊藤忠商事、オリエンタルコンサルタンツ、五洋建設、JFEスチール、
新日本製鐵、住友商事、東亜建設、日建工学、日新

■ なお、WG終了後日、みずほコーポレート銀行にコアメンバーにご加入頂いた。



【コアメンバー会議】

ベトナムWGを設置後、2回に渡りコアメンバー会議を開催。第1回会議において、WGのとりまとめ役として、伊藤忠駒井氏、オリエンタルコンサルタンツ横本氏を選出。議事内容については、主に次回以降のベトナムWGで取り上げるべきテーマについて議論を行った。主な提案内容は以下のとおり。

- 既存（進行中）プロジェクトを参考テーマとして取り扱うか否か。
- メコンデルタ地域では多くの運輸交通プロジェクトが存在。新規プロジェクトとして、カンボジアを含むメコンデルタ地域の開発を検討してはどうか
- 我が国の優れた港湾関連技術は海外で有効活用可能なものが多い。分野別技術のロングリストを作成すると共に、海外市場でどのような技術が求められているが把握したい。
- WGテーマの対象としては、港湾整備・運営に留まらず、周辺インフラや周辺ネットワークについて検討してはどうか。
- メガオペレーター等の動向について調査や考察してはどうか。
- セミナーにおける日本企業のプレゼンテーションについては、各企業個別ではなく、業界ごとにまとめた内容にした方が相手国関係者へ効果的に伝わる。

【WG名称変更について】

コアメンバー会議の議論「ベトナムのみならず背後圏のカンボジアを対象にしてはどうか」「新規プロジェクトとしてメコンデルタ地域の開発を検討してはどうか」という提案を踏まえ、平成23年3月に、WG検討対象の拡大に伴い、『ベトナムWG』から『メコン・ベトナムWG』へ名称変更し、再度WG登録メンバーの募集を実施した。

【第2回WG】

日 時) 平成23年5月26日(木) 10:00～11:30

場 所) 中央合同庁舎3号館10階共用会議室A

出席者) 民間企業62名、関係機関10名、政府関係者9名

議 事)

- ・ 講演：「カンボジアの経済開発と港湾整備」
(CIESF副理事長・カンボジアオフィス代表 篠原勝弘氏(前カンボジア特命全権大使))
- ・ メコン・ベトナムWGの経過報告(港湾局)
- ・ メコン下流域内陸水運開発計画調査報告(OCDI)
- ・ 今後のメコン・ベトナムWGの進め方について

- C I E S F 篠原代表の講演では、カンボジアの海上運送、シハヌークビル港についての情報提供があった。また、カンボジアの農業生産伸張を見込んだ内水交通のあり方や地域経済との連携について説明の上、当地域のランドデザインを日本企業が連携して描くことを推奨された。
- WGの経過報告では、「これまでのコアメンバー会議での意見への対応案」や「WGテーマの対象の考え方」等が確認された。
- O C D I より、メコン下流域の主要河川/水路や主要港湾の状況についての調査報告が情報提供された。
- 最後に、メコン・ベトナムWGの今後の進め方として、事項の内容が確認された。



篠原代表御講演 ↑

今後のメコン・ベトナムWGの進め方

- メコン地域を対象として、新規発掘案件について、調査等の実施により我が国企業が参画しうる案件形成を推進する。

- また、メガオペレーターの動向及び他国の港湾への進出実例について調査等を実施する。

- 相手国政府等へ我が国技術を提案するため、技術の優位性をとりまとめた「我が国港湾関連産業技術ロングリスト」の作成作業を進める。

- 上記項目の検討成果を活用する場として、日ベトナム港湾セミナーを開催する。セミナーの開催にあたっては、相手国政府や港湾関係事業者へ効果的に伝わるような方法を検討する。